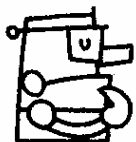


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

こはくの中の虫は、なぜくさらないの



こはくは、松や杉などが地中で化石になったもので、中にとじこめられた虫は、外のものにふれなからくさらないのさ。

やにに閉じこめられた虫が、くさらずに残った

こはくは、6500万～2600万年前ごろ、今より地球の気候が温かかったころにしげっていた、マツ、スギ、ヒノキなどのやに（樹脂）が、化石になったものです。

これらの木が地中にうまり、長い間に、深い地層の下で強い圧力でおされ続けて、やにの成分が変化してかたまり、かたいこはくができたのです。

木の葉やみきについていた虫は、たいてい、木が土中にうまったとき、くさってなくなってしまっています。たまたま、すっぽりやににつつまれてしまって、空気や水やバクテリアにふれることがなかった虫が化石になり、松や杉の化石であるこはくの中に、とじこめられて残っているのです。

こはくは、電気をおびやすい

こはくは、コハク酸というものがおもな成分の、プラスチックと似たものです。熱させられると、150 ぐらいでやわらかくなり、250～300 でとけてしまいます。

すき通っていて美しく、数が少ないことから、ほう石としてあつかわれてきました。日本では、じょう文時代から、首かざりなどに使われてきています。

こはくは、昔から電気をおびやすい性質があることが知られていました。電気に関連したものを、エレキとか、エレクトロというのは、ギリシャ語で、こはくのこをエレクトロンといったことからきています。



おかあさんの持っているこはくのブローチにも、小さい羽虫が入っていたわ。